

学 校 名	山形市立村木沢小学校 山形市大字村木沢6046番地 TEL 023-643-2240 FAX 023-645-8606	校 長	村山 理香
		研究主任	佐藤 千鶴
研 究 主 題	学びを深めるために ～自立的に学び進める子供を目指して～		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>昨年度まで「学びを深めるために～学びを『つなぐ』ツールの活用～」を研究主題として研究してきた。「深い学び」に重点を置き、子供たちが深く学ぶためには、各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学びが大切だということを教師間で共有し研究してきた。指導案の形式を板書形式にし、授業のどの場面で、どのような子供の姿を目指すのか具体的にイメージしながら授業づくりを行ってきた。さらに、今年度からの複式学級導入に備え、昨年度から複式学級を見据えた授業づくりについての研究、研修を行ってきた。</p> <p>昨年度の研究の振り返りでは、「既習や他教科、日常とのつながりを意識して学習に取り組みさせたことで子供たち自身も既習や他教科とのつながりを生かした学びができた」「相手を意識して図、表、写真等の様々なツールを使って話したり、根拠を明確にして話したりするなど表現力の向上が見られた」「タブレット活用によるさらなる学びの広がり・深まりが見られた」等の成果が挙げられた。一方で、子供たちが自ら学んでいく「学び方」の確立、子供たちの自立的な学びを支える教師のコーディネート力の向上が必要不可欠であるという課題も挙げられた。</p> <p>そこで今年度は、「自立」を1つのキーワードとして、子供たちが主体的に課題を見だし、自分たちの言葉で考えをつなぎながら学習を進めていく姿を目指していきたいと考える。子供たちが「自立的に学ぶ」とは、どんな姿なのかを共有し、教師が子供たちの言葉をよく聞き、子供同士の言葉をつなぎ、子供と教師が一緒につくる授業を目指していききたい。</p>		
研 究 の 重 点 と め ざ す 姿	<p>1 研究の重点</p> <p>◇子どもが主体的・協働的に取り組む中で、学びを深めていく授業の工夫</p> <p>2 研究でめざす姿</p> <p>①めざす子どもの姿</p> <p>◇自ら学び、友達と学び、<u>学びを他教科や日常生活等とつなげたり、次の学習課題を見出したりすることができる子ども</u></p> <p>◇友達の見解や考えを聴き、<u>根拠をもって自分の考えを表現したり、言葉でつないだりすることができる子ども</u></p> <p>◇多様な考えや様々な情報をもとに、<u>自分の考えを見直したり再確認したりすることができる子ども</u></p> <p style="text-align: right;">(下線・・・村木沢小 育成すべき資質・能力)</p> <p>②めざす教師の姿</p> <p>◇子供たちの自立的な学びを支えることができる教師</p> <p>◇子供たちの学びをつなぐためのコーディネートができる教師</p>		

研究の視点と内容	<h3>3 研究の視点</h3> <p>◇学びを深めるための手段や手立て 既習とのつながり、学習ツール（図・式・タブレット等）の活用、教師の発問、ワークシートの工夫など</p> <p>◇自立的な学びを行うための手段や手立て 教師の「待ち」と「出」を意識した授業計画、単元構成の工夫、ICTの活用、個の学習の充実と協働的な学習の充実など</p>	
	<h3>4 研究の内容</h3> <ul style="list-style-type: none"> ・研究主題に、独自の発想、構想で向かっていけるように、主要四教科を中心に、学びを深めたい教科、道徳及び外国語活動等も積極的に研究し、実践する。 ・【村小スタンダード】を共通のものとし、研究の日常化を図っていく。そのうえで、いろいろな視点・方法から研究、授業等を通して、各自で研究主題へ迫っていく。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【村小スタンダード】</p> <p>① 「めあて」「まとめ」を明確にし、1時間の授業の流れが見える板書</p> <p>② 学びを自覚できる、次時の学習につながるような「振り返り」の視点の工夫</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学びを大事にしていく。指導案に具体的に「見方・考え方」を働かせている子供の姿を記述し、「深い学び」にさらに迫っていく。 ・子供たちの「学びが深まっている姿」「自立的に学ぶ姿」とはどんな姿なのか教師間で共有し、研究でめざす子供の姿に迫っていく。子供たちの自立した学び、さらには深い学びを目指していく。 	
研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の日常化を図る。 →研修や日々の授業の中で「学びが深まった姿」「学びを深めるために効果的だった手段・手立て」「自立的に学ぶ姿」などを話題にし、集積していく。 →教師間で共有する場を設ける。 ・スーパーバイザーとして外部講師を招聘し研修をしていく。 ・授業研究を一人一回行う。 ・授業者は「研究のまとめ」を発行する。 ・年度末には研究成果、反省を受けて、次年度の研究につなげていく。 	
研究の計画	4月	研究全体会（校内研究内容の検討） 校内研修会：「学年カリキュラム検討」「村木沢を知る」
	6月～12月	授業研究会
	7月	校内研修会：「学年カリキュラム検討」「全国学調・学力テスト分析」
	12月	校内研修会：「学年カリキュラム検討」 「本校の児童のよさを生かし、課題を克服するために」
	1月～3月	研究のまとめ作成・発行
	2月	研究推進委員会 研究全体会（研究の振り返りと次年度の研究に向けての協議）